

1 題材名 「サステナブルな社会を目指して」

2 指導観

- 2015年に「持続可能な開発目標」が国連サミットで制定されて7年が経過し、政府や企業、マスメディア、活動団体により、「SDGs」という言葉は世の中に広く知れ渡っている。2020年からの10年間は「行動の10年」とされ、目標達成のために、一人一人の行動の変容が強く求められている。

本題材は、消費行動や契約の仕組みを基に、サステナブルな商品を普及させるための店舗設立の企画書を作成する活動を通して、消費者の権利と責任に気付き、持続可能な社会の実現に貢献する態度を育成することをねらいとしている。学習内容としては、商品選択の基準、消費行動と環境や社会への影響、消費者の権利と責任、物資とサービスの違い、購入方法と支払方法の特徴、販売方法の違い、物資やサービスの購入の方法などがある。このような学習内容から、生徒は日常生活で行っている消費行動について振り返り、消費者として商品を選ぶ基準や販売者が商品を選んでもらうためにどのような工夫をしているかを考え、消費者としてサステナブルな社会を実現していくために選択肢を吟味することの必要性に気付くことができる。したがって、本題材を学習することは、消費者一人一人が商品選択の際に知識や明確な基準をもつことの必要性を学び、消費行動の変容に繋がるきっかけを与え、サステナブルな社会の実現に繋げることができるため、大変意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、「「サステナブル商品」の普及に向けた店舗を設立するために企画書を作成しなさい。」という学習課題を提示し、消費者と販売者の二つの視点から消費生活の仕組みや商品選択に向けた情報の収集や方法について検討する活動を通して、サステナブルな社会の実現に向けて、より良い消費行動の行い方や意義に気付かせたい。そのためにまず、自分や家族の消費行動を振り返り、どのような店や商品を選んでいるかを考察させる。ここでは、商品を選択する際に重視されている基準に気付かせるために、複数の商品から生徒自身に選択させ、Google Formsで集計する。次に、商品を購入する際に考慮すべき条件を探らせる。ここでは、物資とサービスの違いや販売方法の特徴、持続可能な社会の実現に繋がる商品の存在に気付かせるために、商品購入のロールプレイの場を設定し、様々な条件のモデルケースを提示する。さらに、持続可能な商品を普及させるための工夫を提案させる。ここでは、サステナブルな商品を消費者に購入してもらうための店舗企画書をグループで作成させるために、Google Slideで共同作業をするよう促す。最後に、商品購入に必要な情報の収集・選択の方法をまとめ、これからの消費生活の目標を立てさせる。ここでは、多様な消費行動に着目させるために、他者の意見をブラウザ上で共有し、比較を促す。

3 目標

- 購入方法や支払い方法の特徴を踏まえて、必要な情報の収集・整理を行い、適切な物資・サービスの選択ができる。
- 物資・サービスの選択に必要な情報を踏まえて、自身の生活の課題解決に必要な条件を考察し、持続可能な消費生活を送るための工夫を表現することができる。
- 持続可能な消費生活の実現に向けて、必要な情報を収集・選択し適切な商品選択を行う方法を実生活に生かそうとする。

4 計画 (9時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて	評価規準
一	1	1 身近な消費行動を振り返り、どのような店や商品が選ばれているかを考察する。 ・商品選択の基準 ・環境や社会への影響	○ 消費行動における商品選択の基準が人によって異なることに気付かせるために、〈コンフリクト〉の段階でどのような店や商品を選びたくなるかを問う。	態：自らの生活を振り返り、持続可能な消費生活を実現するための課題に主体的に取り組もうとしている。
【学習課題】 「サステナブル商品」の普及に向けたショップを設立するために企画書を作成しなさい。				
二	3	2 商品購入の際に考慮すべき条件を探る。 (1) 物資とサービスの違いと契約の方法を知る。 ・物資とサービスの違い ・契約と支払方法の特徴 ・二者間契約と三者間契約の違い (2) 販売方法の違いを知る。 ・店舗販売の仕組み ・無店舗販売の仕組み ・販売方法の特徴 (3) 持続可能な消費生活とはなにかを探る。 ・持続可能な商品選択の方法	○ 物資やサービスを選択するには自分に適した支払方法があることに気付かせるため、〈外化〉の段階で事例に応じた支払方法の選択理由を説明するよう促す。 ○ 様々な販売形態が存在していることに気付かせるために、無人店舗の資料を提示する。 ○ 環境に配慮した商品の必要性に疑問を持たせるために、〈コンフリクト〉の段階で、環境に配慮した商品を選択しているかを問う。	知：購入方法や支払い方法の特徴を踏まえて、自分に適した支払い方を選択している。 知：様々な販売方法の特徴を踏まえて、利点と欠点を説明している。
三	4	3 持続可能な消費生活を推進する工夫を提案する。 (1) ～ (3) サステナブル商品の魅力や普及へつながる工夫を伝えるプレゼンテーションを作成する。 ・物資やサービスの工夫 ・商品と店舗の魅力 (4) 自分に必要な物資・サービスを選択する。 ・物資やサービスの購入の方法 ・計画的な金銭管理の重要性	○ 小集団内で知識を共有して活動させるために、〈外化〉の段階で Google スライドを用いた活動を促す。 ○ 商品を選択するための多様な視点に気付かせるために、各グループの工夫点の良さを問う。	思：消費者の持続可能な消費行動を促すための店舗の工夫を提案している。 知：購入方法や支払い方法の特徴を踏まえて、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理を適切に行っている。
四	1	4 商品購入に必要な情報の収集・選択の方法をまとめ、これからの消費生活の目標を考える。 ・今後の消費生活 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な消費生活を送るためにできること	○ 消費行動の際に重視する点が人によって異なることに気付かせるため、〈外化〉の段階で他者の重視する条件と比較するよう促す。	態：商品の選択方法や消費者の権利と責任を基に、持続可能な消費生活を送るために実生活を工夫・改善しようとしている。

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第4校時 計画 第一次 家庭科室にて

(1) 主 眼

- 自分の消費生活を振り返り、商品選択をする際に考慮する条件の多面性に気付く活動を通して、自らの選択基準の中にサステナブルを取り入れるまたは取り入れないことでの利点・欠点を説明することができる。

(2) 準 備

- ①ワークシート (ロイロノート) ②企業のロゴマーク ③商品 (お菓子, 文房具)
- ④商品選択アンケート (Google Forms) ⑤意見共有シート (Jam board) ⑥振り返りシート

(3) 過 程 I…コンフリクト II…内化1 III…外化(内化2) IV…リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
1 日常生活の物資・サービスを提供している店の特徴に気付く。 ・日常生活で使用している店舗 ・物資とサービスの違い めあて 商品や店舗を選ぶ決め手となる条件はなんだろう？	① ②	I	○ 日常生活で様々な消費行動を行っていることを想起させるために、教師の生活で利用している店舗を示す。 ○ 物資・サービスの多様性に着目させるために、衣食住の項目に当てはまる様々な企業のロゴマークを提示する。 ○ 日常の消費行動を行う際の商品選択・決定に関わる条件に着目させるために、これらの店を選んでいる理由はなにかと問う。 ○ 人々が様々な基準をもとに店を選択していることに気付かせるため、複数の同業種の企業を示す。	一斉 ↓ 個 ↓ 一斉	5
2 商品や店舗を選択するときに重視する条件を探る。 ・購入するときに考慮する条件 ・環境に配慮した購入	③ ④	II	○ 実生活と関連付けて商品を選択させるために、中学生が日常で購入するもの(お菓子, 文房具)を三種類ずつ提示し、自分が優先する条件を示し選択するよう促す。 ○ 他者の商品を選ぶ基準に触れるため、商品選択アンケート(Google Forms)に投票するよう促し、アンケート結果をグラフで提示する。	一斉 ↓ 個 ↓ 小集団	15
3 サステナブルが商品購入の決め手となるかを話し合う。 ・消費者が求めている購入条件 ・サステナブル商品の普及	⑤	III	○ アンケート結果をより細かく分析させるために、Google Formsのリンクを提示する。 ○ 持続可能な商品を選択、購入されない背景を探らせるために、なぜ学習活動2でそれらの商品を選ばなかったのかを問う。 ○ サステナブル商品を購入するかしないかとその理由を意見共有シートに色分けして記述させ、交流を促す。	個 ↓ 小集団	20
4 学習課題を提示し、題材を学ぶ意義に気付く。 ・消費者と販売者の関係 ・販売者の視点	⑥	IV	○ 様々な選択肢の中から自分に合った物資やサービスを選択できる力を身につける必要があることに気付かせるために、題材を通して消費生活の仕組みを学ぶことを伝える。 ◇ 自らの消費生活を振り返り、自らの商品選択の決め手にサステナブルを取り入れるか否か理由をもとに説明することができる。 <ワークシート分析>	一斉 ↓ 個	10
【学習課題】 「サステナブル商品」の普及に向けた店舗を設立するために企画書を作成しなさい。					